

訃報 伊藤 登啓さんを悼む

野口 一雄

伊藤登啓（のりひろ）さんは第一次岩鼻会長と野口の時に 4 期 8 年副会長を務めてくださった。

会報「村山民俗の会」18 号（昭和 62. 12. 26）〈短報〉に、下記の記事が載っている。

このたび入会しました伊藤登啓氏から手紙をいただきました。

先日の研究会〔山形県民俗研究発表会〕大変面白く拝聴いたしました。・・私の専門は実は畜産であります、鶏との関係から荷渡神社を調べており、水との係わりから、貴船神社や船着観音（寒河江市西根）も荷の受け渡し、船の交通安全など、民間信仰とも結び着いていたようです。・・次回の研究発表を楽しみにしております。

会報 191 号（2007. 7）に、伊藤さん家宅で「野兎狩りの話を聞く」（平成 19 年度第 1 回現地研修）との記事が載っている。前日の村山民俗学会総会後の講演会で、文化庁主任調査官だった天野 武氏の講演「山形県における野兎狩りの民俗」があり、翌日、伊藤さん宅で、天野氏を含め野兎狩りの経験をもつお二人の方との懇談の様子の綴りである。伊藤さん宅には毎年ツバメが訪れるとのこと。ツバメが家屋のなかに巣を作っているのが印象的だった。

伊藤さんはこの 4 月、余命半年から 1 年と宣告されたなか、ライフワークであった荷渡信仰を出版するため、市村幸夫さんの協力の下、精力的に準備を進めていた。

9 月 3 日、出版を待たずに逝去。その 5 日後『山形県の荷渡信仰』（令和 7. 9 発行）が納品された。伊藤登啓さんは村山民俗の会時代からの、数少ない会員のお一人でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

高掬尾曳稲荷神社への奉納物

村山 正市

天童市高掬には、かつて館林藩秋元家領の支配のために陣屋が置かれた。陣屋役所の傍に稲荷神社を祀り崇敬されてきた。明治 3 年の廃藩に伴い、多くの家臣は館林に戻るが、一部の家臣は高掬や漆山に残る。一時は、高掬南の鎮守皇大神社に合祀されたが、旧家臣山口氏らにより同境内西側に神社を建立して今に至る。この神社には、幕末羽州領の家臣が奉納したものが掲げられている。また、大正 12 年に高掬を子爵秋元春朝公